

1 PLAN(目的・概要)

建設整備事業

政策名	物流・産業		26年度事業・施策評価結果		責任者 建設部 事業推進課長
施策名	国際・国内海上輸送機能の強化		成果	コスト	
事務事業名	稲永ふ頭ふ頭用地整備事業		継続	維持	維持
目的	対象(誰・何を)	稲永ふ頭用地			事業期間 平成4~31年度
	意図(どういう状態にしたいか)	陸上輸送と海上輸送の複合一貫輸送に対応した内貿ターミナルを整備します。			
概要	整備場所:名古屋港区(稲永ふ頭) 内容・規模:陸上輸送と海上輸送の複合一貫輸送に対応した内貿ターミナルを整備し、モーダルシフト(トラックによる幹線貨物輸送を、地球に優しく、大量輸送が可能な海運または鉄道に転換すること)を推進します。ふ頭用地7.1ha(埋め立て、地盤改良、舗装工、排水工等)等の整備 総事業費:41億円				根拠法令等 公有水面埋立法 港湾整備促進法 名古屋港湾計画
事業着手時点の評価	ふ頭用地の整備を行うことにより、ふ頭機能の老朽化に対応するとともに、ヤード面積等(7.2ha)が確保され、在来貨物等取扱機能の向上を図ります。				実施義務 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
27年度の実施予定	複合一貫輸送に対応した内貿ターミナルへの需要動向を見極めながら事業の進捗を実施するため、現時点ではふ頭用地整備を行う予定はありません。				関連シート

2 DO(実施)

27年度に実施した内容・結果	事業進捗はありませんでした。					
コスト	単位	25年度	26年度	27年度	合計(平成4年度~)	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	0	0	0	3,272,000	
人件費	千円	0	0	714	-	
合計	千円	0	0	714	3,272,000	

3 CHECK(検証)

指標名	25年度	26年度	27年度	中間目標	30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
事業進捗率(%) (進行管理型)	目標	-	79.8	79.8	94.4(累計)	事業進捗率は、総事業費を100とした事業費の割合です。	
	実績	79.8	79.8	79.8			
	事業進捗状況(27年度)			順調 やや遅れ・遅れ			
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	ふ頭用地需要の動向を見極めたのち、3ヶ年で整備をすすめていく計画となっております。これまでの工程は順調に進捗しております。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性 事業着手時に比べ必要性が低下していないか? 事業費規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○	稲永ふ頭における在来貨物取扱機能の向上について、利用者ニーズを見定めながら、事業を進めていく必要があると考えております。					
有効性 事務事業は、施策達成に貢献するか? 期待どおりの成果が得られているか?	○	ふ頭用地を整備し、在来貨物等の取扱機能を向上させることは、上位施策である「国際・国内海上輸送機能の強化」に貢献すると考えております。					
効率性 最小のコストとなっているか?	○	ふ頭用地の需要動向を見極めながら、事業を実施しております。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	28年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
延伸	維持	維持	ふ頭用地需要の動向を見極めながら、必要な事業の推進を図る必要があるため。 * 今回の評価にて、事業完了年度を延伸(31→32年度)
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題			28年度以降の取組
複合一貫輸送に対応した内貿ターミナルとしてのふ頭用地需要を見極めながら事業進捗を実施する必要があります。			引き続き、ふ頭用地需要を見極めながら事業を進めていきます。